相模女子大学

高等部×幼稚部

「お姉さん先生！」園児と過ごし、夢確かに

学園連携事業「読み聞かせボランティア」「保育ボランティア」を通して

幼稚部から大学院まで一つのキャンパスにそろう相模女子大学。各部の枠組みを飛び越えた学園内の連携を深めています。相模女子大学全体の学びの質や人間性の向上を目指し、様々な取組みを推進しています。

学園連携が活発な同学園の取組みの中で、今回は高等部の生徒が、同学園の幼稚部で行う「読み聞かせボランティア」と「保育ボランティア」を取材。インタビューに答えてくれた荒井陽奈希さん、伊藤みのりさんは現在高等部の3年生で、相模女子大学学芸学部子ども教育学科への進学が決定している。ボランティアで学んだことや、将来像について伺った。（読み聞かせボランティアは相模大野図書館とも連携して運営しています）

荒井陽奈希さん

参加した動機を教えてください

荒井さん「もともと子どもが好きだったのもあったのですが、私自身が幼稚園にいた時の楽しい思い出が強く残っていて、子どもたちにそういった思い出を作ってあげたいなと。高校2年生の時、ボランティア活動で読み聞かせや預かり保育で子どもたちに触れ合って、改めて幼稚園の先生になりたいと強く思いました」

伊藤さん「私も以前から子どもと触れ合うのが好きで、当初は保健室の先生（養護教諭）に憧れていました。子どもと関わる経験をして、具体的な幼稚園教諭という将来像が見えました」

具体的にどういったボランティアを行ったのでしょう

荒井さん「相模女子大学幼稚部の園児に向けて絵本の読み聞かせを行ったり、預かり保育の体験をしました。絵本を読む際は、子どもの目線で読むことや、絵本を持つ角度に気を付けたり、イントネーションをつけ表現したり。絵本を好きになってもらいたい一心で行いました」

伊藤さん「荒井さんと同じく、読み聞かせと夏季保育のボランティアの体験です。子どもと遊んだり寝かしつけ等も行い、感じたことは『子どもはとても素直』ということ。子どもたち一人一人に合った丁寧な指導をしている先生方の姿を見て、私もそんな先生になりたいと思いました」

笑顔いっぱいの読み聞かせボランティア

高等部と同じ敷地内に幼稚部があることは活動する上で魅力だったのでは

荒井さん「校舎を出て歩いてすぐに行ける距離で助かりました。こういった経験ができるのは、併設されているからこそですね」

伊藤さん「私達は交代で担当するのですが、『お姉さん先生！』と園児に親しんでもらいました。こういった園児と関われる制度があることを入学してから知ったので、ココ（相模女子大学高等部）に入学して良かったと改めて思いました」

伊藤みのりさん

大学ではどんなことを学び、将来どのような先生になりたいですか

荒井さん「子どもの遊びがその子の人生（将来）にどう関わるか、そういったことを学んで将来に活かしたい。大学3，4年の実習の前に2年時には幼稚部でのインターンシップもあると聞き、今からとても楽しみです。『この先生がいるから幼稚園に通っていて良かった』と思ってもらえるような、笑顔いっぱいの先生になりたいです」

伊藤さん「高校3年時に大学の授業を先取りで学べる『実践遊び学』を受講しました。先生との距離が近く、相模女子大学に進学したいと思いました。今、家庭の事情などで子育てに悩んでいる保護者の方も多いと聞きます。そんな保護者の方たちをサポートしながら、出会って良かったと思ってもらえるような先生になりたいです」

同じ体験をしても、描く幼稚園教諭の姿は様々。実際に園児と触れ合い学んだことで、将来像もはっきりとしたという2人。どんな先生になるのか、今後の活躍が楽しみです。

「連携教育、地域との連携を軸に」

明けましておめでとうございます。

本学は認定こども園 幼稚部から小学部、中学部、高等部、大学、短期大学部、大学院までが「一つのキャンパス」にある総合学園の特徴を活かして、世代を越えた連携教育を進める一方、市民大学、相生祭などを通じて、地域との連携を強めてまいりました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校法人相模女子大学
谷崎昭男 理事長

大学～幼稚部

かるた、書初め 歴史の奥深さを知る

日本の伝統文化教育

日本の伝統芸能など古くから大切にされてきた文化に触れる機会が多いのも、相模女子大学の特徴だ。

同大の卒業生には、かるた会の女王・「永世クイーン」の渡辺令恵氏がおり、2015年から渡辺氏を囲んでかるたの腕を競う「相模女子大学渡辺令恵杯かるた大会」を開催。幼稚園児から大学生まで希望者が集い、かるたの楽しさ、奥深さに触れている。

一方、新年の書初めも同学園をあげて毎年恒例となっている行事。小学部の児童から大学の学生まで、各々が丹精込めて書いた書は、一斉に相模大野ギャラリーに一般公開される。

書初め展のようす
（相模大野ギャラリー）

「食は楽しい」を伝える

つなぐ手・EKS食育プロジェクト

大学×小学部・幼稚部

大学栄養科学部の学生が小学部の児童に向けて行う「食育の授業」は2010年にスタート。管理栄養士・栄養士・栄養教諭を目指す学生にとって、食の専門家として理論を踏まえて食育の企画から評価までを実践できる、貴重な機会に。一方、小学生にとっても、普段何気なく口にする食材に関して主体的に学べる場となっている。また同様に、大学生が小学生や幼稚園児に料理を通して食育の指導を行う「キッズクッキング」も人気のイベントだ。

見つめる人になる。見つける人になる。

学校法人 相模女子大学

相模原市南区文京2−1−1
042-742-1411（代）
小田急線「相模大野駅」徒歩10分

大学院／大学／短期大学部／高等部／中学部／小学部（男女共学）／認定こども園 幼稚部（男女共学）

入試情報			
一般入試（WEB出願可能）	A日程	出願期間：1/5(金)〜1/15(月) 消印有効 窓口受付：1/16(火)・17(水)　試験日：1/20(土)	
大学入試センター試験 利用入試（WEB出願可能）	A日程	出願期間：1/5(金)〜1/12(金) 消印有効	
AO入試	面接日	アピールシート提出期間	
	2/6(火)	1/15(月)〜1/31(水)必着	
	3/2(金)	2/5(月)〜2/26(月)必着	

詳細は大学入試課へ ☎0120−816−332　携帯電話から ☎042−749−5533

サガジョNEWS

地域貢献度 全国女子大No.1

全国各地との連携が活発に行われている相模女子大学では、2017年度の「大学の地域貢献度ランキング」で全国女子大学第1位を獲得。2011年から連続（※）で1位を獲得している。

※調査のなかった2016年度を除く

「災害用マンホールトイレ（改良案）」試作品披露 生活デザイン学科

生活デザイン学科の学生と相模原市との連携により、このほど、災害用マンホールトイレの試作品が披露された。学生らは東日本大震災の時に利用した人々へヒアリングを行った上で、「いつも通りの＝快適で使いやすい」をテーマに改良を加えて制作した。

宇宙エレベーターロボット競技会 小学部チームが出場

レゴブロックで作ったロボットの性能を競う「第5回宇宙エレベーターロボット競技会」が11月に行われ、小学部チームが初出場。29チーム中5位の成績を収めた上、自分たちのロボットを宣伝するポスター部門では3位に入った。